



一般社団法人日中化粧品国際交流協会 Japan-China Cosmetic Exchange Association
〒650-0045 兵庫県神戸市中央区港島南町 5-5-2 神戸国際ビジネスセンター TEL : 81-78-381-5304 FAX : 81-78-303-3077
<http://www.cosmo-jc.org>

5 月後半は協会行事のオンパレードであり、協会始まって以来、最も濃密なスケジュールと言える。では一体どのような協会行事があったのか、以下より見てみよう。

1. 「唯美之路」国際化粧品協力サミット 東京フォーラム

「唯美之路」国際化粧品協力サミットは5月13日～5月17日にかけて開催され、中国化粧品業界において最も歴史のあるメディア「化粧品報」が主催し、協会が協力した。この期間中に中国の化粧品メーカー、小売り専門店の代表者らが40名以上来日し、日本の化粧品業界について理解を深め、交流を行った。

5月13日、中国の上海、広州などから遠路はるばるやってきた中国参加者たちは旅の疲労感をものともせず、名だたるブランドの旗艦店が集まる銀座へ市場調査に出かけた。マツモトキヨシの新形態店舗である Beauty U を見学し、資生堂、そしてファンケルスクエアなどを見て回った。限られた時間ではあったが、リアル店舗における消費者に提供する体験を充実させる必要性のある中国化粧品専門店の経営者の方にとってはとても勉強になったという。

5月14日、午前中は群馬県にある OEM 会社の株式会社シーエスラボの工場を見学。初めて目にする器具も多々あり、中国代表者は興味津々であった。午後は、東京ビッグサイトで盛大に開催されている展示会ビューティワールドを見学して回った。



5月15日、午前中は南青山にあるカマタメイクアップスクールへ訪問した。スクールの創始者である鎌田誠氏は、シュウウエムラ化粧品の創業者である植村秀氏の長年のパートナーであり、50年以上メイクアップに注力されてきた。50年間という年月に中国代表者たちは日本の匠の精神を垣間見し、各々と賛嘆した。

左：鎌田誠氏

午後には今回のイベントの最大な目玉となるシェラトン都ホテル東京を会場とした「唯美之路」東京フォーラムが開催された。これには日本からも50名あまりの業界の方々が集まり、日本化粧品連合会の専務理事である山本順二氏からの開会挨拶を以て幕開けとなった。化粧品報の編集長兼社長である杜宏俊氏は「太古の昔より日本と中国の交流は途絶えたことなく、連綿と続いている。化粧品業界も日中が活発に交流し、WIN-WIN 関係を構築すべき分野であり、これが今回のイベントを開催した趣旨である。」と語りました。協会理事長の楊建中博士も今回イベントの協力機関として挨拶を行い、「中国での消費者一人の平均購買額は日本の8分の一で、まだまだ伸びしろがある。そして日本が持っている技術・経験というソフトパワーと中国にある市場・購買意欲はちょうどお互いに補完関係があり、より交流を深め、ビジネスチャンスがある。」と述べた。

主題講演には、化粧品報が長年の取材によって集めた日中化粧品市場の対比データをまとめた観察レポートやアリババグループの璐晴氏による現在中国でもっともホットな分野の一つである E コマースについての解説、中国における輸入化粧品やこの2年間に変動があった中国化粧品の法律法規など、中国化粧品市場の現状を把握できる講演が目白押しであった。



左：日本化粧品工業連合会
専務理事 山本順二氏
右：会場の様子

下：化粧品報 編集長兼社長
杜宏俊氏

中国側代表者からの反響が特によかったのは株式会社コーセーの香東貴美氏による『「人」の価値とは？ビューティアドバイザーの価値とノウハウ』であった。香東氏は中国と日本の文化の相違による顧客やその接客方法が異なり、中国ではリアル店舗で購入するお客様は日本に比べて少ないが、中国のお客様に適応した接客方法を行えば、リアル店舗での購買率はまだ伸びるだろうと述べた。最後は株式会社シーボン、そして協会の専門家でもある大亀雅彦氏が日本化粧品市場について解説し、フォーラムは終了となった。フォーラムの後には懇親会が開催され、日中企業から合計 70 名が参加し、それぞれの情報交換と交流を行い、中国側参加者には主催側の化粧品報より「東京さくら賞」が授与された。



花王ミュージアム

5月16日、午前中は都内にある花王ミュージアムに訪れ、午後には静岡県にある資生堂の資料館を見学した。花王も資生堂も日本を代表するような歴史ある企業であり、その歩みが刻まれた物品や資料を目にすることにより、中国代表者たちはたいそう刺激を受けた。帰路についたときには口々に我々も自分の企業を百年以上のものにするぞと意気込んだ。

今回の旅で日本企業の匠の精神を肌で感じることができ、中国代表者たちは収穫が大変多いと多くの感想が寄せられた。日中化粧品業界の架け橋となり、ビジネスチャンスの発見を助けるという目的で設立された協会として今回はとても有意義なイベントになったと自負している。

2. 2018 中国美妆国际サプライチェーン大会

2018年5月20日、上海にて中国業界メディアの「中国美妆」が主催する国際サプライチェーン大会が開催され、協会理事長の楊建中博士も登壇し、講演を行った。講演では、昨年ポーラが発売したリンクルショットを皮切りに各大手化粧品メーカーはアンチエイジングを効果とする機能性化粧品の開発・発売をするようになったことを紹介。そして、この機能性化粧品はいずれ中国でもトレンドになると予測した。



協会理事長…楊建中博士

3. 第二十三回中国美容博覧会—日中化粧品交流フォーラム

2018年5月22日、第二十三回中国美容博覧会の開催期間中に協会が主導する日中化粧品交流フォーラムが同会場内で開催された。

まずは協会理事長の楊建中博士の機能性化粧品の開発を構成する要素についての紹介によってフォーラムがスタートした。構成要素には皮膚と頭髮に関する基礎研究、新有効成分の開発、処方技術の開発そして機能性評価及び宣伝があり、特に基礎研究こそが技術開発の原点であると意見を述べ、IFSOGにおいて受賞数最多である日本は基礎研究の分野では世界の最先端をゆくものであると説明した。

協会の専門家である高橋元次博士は皮膚アンチエイジングにおける基礎研究の最新動向について詳細な解説をした。高橋博士はまずオートファジーと皮膚老化の関係性、そして皮膚のタルミ生成メカニズムの解明について説明し、企業がそれに対して開発した有効成分、資生堂のレチノール、ポーラのニールワンについて紹介した。

早稲田大学教授、ヒアルロン酸機能性研究会会長である矢澤一良博士はヒアルロン酸のアンチエイジングに対する研究について講演を行った。まずはヒアルロン酸について説明をし、そして肌、髪に対するヒアルロン酸の効果、ヒアルロン酸の将来の可能性を述べた。

三つ目の講演には株式会社ポーラ・オルビスホールディングス執行役員、2018年のウマン・オブ・ザ・イヤー大賞を獲得した末延則子博士によるポーラが取り組むイノベーションが紹介され、リンクルショットが開発された過程について講演した。末延博士によると、リンクルショットを開発し、医薬部外品を新規申請しようと考えた時期は、ちょうど美白製品による肌を起こる白いまだら問題が世間を騒がし、医薬部外品の申請が更に厳しく、難しくなっている時期だったという。その困難にめげず15年の歳月をかけてリンクルショットを世に押し出した。上市して一年間で、各美容雑誌のベストコスメを完全制覇し、そして通常はスマートフォンや電気家電に与えられる日本経済新聞賞を獲得したほど、世間を騒がした商品になったという。



高橋元次博士



矢澤一良博士



末延則子博士

そして、最後の講演には協会理事長の楊建中博士による頭皮ケアと抜け毛防止の最新動向の講演であった。楊博士は頭皮ケア技術及び商品例、育毛技術及び商品例そしてアジア頭皮健康研究センターの最新研究動向の3つのテーマに基づいて講演を行った。

この日中化粧品交流フォーラムの会場はフォーラム開始時満員の状態で迎え、会場後方には立見席が自然と何重にもできるような盛況ぶりであった。この様子からも今日本の技術は中国では非常に重視され、皆が関心を持っていることが伺える。この日の夜には中国美容博覧会が主催する出席者1200人にも及ぶ美伊晚餐会に協会も数名招待され、その席で協会は国際交流賞を受賞した。



日中化粧品交流フォーラム会場の様子



美伊晩餐会で受賞する協会代表の楊建中博士

4. 浙江欧詩漫特種化粧品有限公司 (OSM) への工場見学

5月25日、一部の協会日本会員をお連れして浙江欧詩漫特種化粧品有限公司 (OSM) への見学を行った。OSM は杭州郊外にある徳清という風光明媚な場所にあり、真珠を養殖することで事業を開始し、50年の歴史を有している。古来より真珠は装飾品としてはもちろんのこと、真珠を粉にすり潰したものは美容にも食用して健康にも効果が高いことは有名である。

私たちはまず、OSM の真珠博物院を訪れた。博物院の玄関口ではギネス記録を所有する 200 万粒の真珠で作られた高さ 5.98 メートルの真珠寶船が我々を出迎えた。この宝船は噂にはかねがねであったが、実際にしたのは初めてで、インパクトの大きさには驚かされた。これぞ百聞は一見に如かずというものだと皆が心の中で思ったものである。そして博物院には古代の真珠の取り方の再現や真珠で作成された昔の装飾品、健康食品、そして様々な真珠（縦長や湾曲しているものなど）や貝などが展示されていた。博物院への見学で、一行は真珠の起源、養殖技術などについて理解を深めることができ、特に真珠の化粧品及び医薬品への活用について改めて学んだ。

次に訪れたのは OSM の工場である。この工場では 30 以上のスキンケアと健康食品の生産ラインがあり、準マイクロ真珠粉精製技術と真珠ポリペプチドの抽出技術、そして先進的な設備を有している。将来には 24 時間無人で稼働できる倉庫をつく予定だと言う。

今回の見学ではひたすら驚かされることが続き、現在の中国国産化粧品メーカーもどんどん発展していることがわかった。そしてこのような素晴らしい博物院と工場を見学させてくれて、OSM の沈偉良総経理には協会一同心よりお礼を申し上げたい。ありがとうございます。



沈偉良総経理…後列、左からの番目

5 月の一ヶ月間を回顧すれば、大変に多忙な日々ではあったが、これらのイベントを通して日中間の化粧品業界はよりお互いについての理解を深めることができただろう。このように化粧品業界の日中間のイベントが活発化することは、現在日中間の交流がますます求められている証拠である。5 月の一連のイベントを通して、我々は日中間の相補性を更に強く意識するとともに、今後の日中間の交流はより発展していくだろうことを確信している。